

ひろしま安芸高田神楽
第6回東京公演報告

■圧巻の舞台！

満席の会場からは惜しめない拍手
第6回を迎えた東京での神楽公演。安芸高田市の代表として、上河内神楽団が渾身の舞を披露しました。「神降し」の激かな雰囲気から一転、激しく舞われる勇壮華麗な舞に、満席の観客は一気に引き込まれ、歓声と拍手が鳴り響きました。最後の演目が終わり、



一列にならんだ時の達成感に満ちた団員の顔。惜しめない拍手を送る観客。安芸高田神楽の魅力が伝わることでできたと感じた瞬間でした。

■多くの人でにぎわった市の魅力を伝える各ブース

特産品の販売ブースは、長蛇の列ができるほどの大盛況。神楽衣裳の試着体験では、多くの方が神楽の衣裳に触れ、その重さを体験し、勇壮華麗な舞の裏にある舞人の苦労を想

像しているようでした。このほかに、サンフレッチェ広島、観光情報、定住促進、ふるさと納税など市の魅力をPRしました。



■公演の成功に重要なボランティア、協賛企業の協力

運営には、多くのスタッフが必要となります。今回もボランティアスタッフとして、ふるさと応援の会、京セラコミュニケーションシステム、一般応募の約50名のみなさんにご協力いただき、丁寧な接客で、来場された皆さんをもてなしていただきました。また、資金面では、ふるさと応援の会をはじめ、多くの方のご尽力もあり、協賛企業21社から多額のご支援をいただきました。

商工観光課
☎47-4024 ☎42-1003

臨時福祉給付金(経済対策分)の申請受付が始まります

消費税率の引き上げに伴う低所得者の負担を緩和するため、臨時福祉給付金(経済対策分)が支給されます。今回は平成29年4月から平成31年9月分の2年半分が一括で給付されます。

【支給対象者】

・平成28年1月1日に安芸高田市に住民登録がある人

・平成28年度の市民税が課税されていない人(課税されている人に扶養されている人や、生活保護を受給されている人等は対象になりません)

【支給額】

支給対象者1人につき1万5千円

【申請受付期間】

3月1日～6月1日までの3か月間(6月1日消印有効)

【申請手順】

- ①申請書を対象世帯の代表者に郵送(2月28日発送)
- ②申請書が届きましたら、必要事項を記入
- ③必要書類を添付し返送用封筒で返送(本庁・各支所に直接持参されなくても申請を受け付けます)

④書類審査後、申請書に記載された指定口座に入金します。
●配偶者からの暴力を理由に避難している人へ
事情により、基準日(平成28年1月1日)時点で安芸高田市に住民票を移すことができない人でも給付金を受けられる場合がありますので、お問い合わせください。

●給付金を装った不審な電話・メールが発生しています。「振り込め詐欺」や「個人情報・マイナンバーの詐取」に注意してください
不審な電話や郵便があった場合は、迷わず市役所や最寄りの警察署または警察相談専用電話(9110)に連絡してください。

●制度に関するお問い合わせ
厚生労働省の相談窓口
(専用ダイヤル)
☎0570-0037-192

【受付時間】
9時～18時(土日祝日含む)
市へのお問い合わせ
福祉保健部
社会福祉課臨時福祉給付金担当
☎42-5626
お太助フォン☎42-5615

社会福祉課
☎42-5615 ☎42-2130

リズムプログラム Vol.4

地域おこし協力隊

安芸高田市で、夢を抱いて様々な活動に取り組む挑戦者たち。彼ら突き動かす原動力とその熱い想いに迫ります。

自然をよりどころにして
どこまで暮らせるか挑戦中

地域営農課
みなみざわ かつひこ
南澤 克彦さん



薪割りは見た目以上に大変



休日 お風呂やストーブで使う薪割りや農作業をしてスロライフを実践しています

楽しみ 鹿肉を使った料理の試作。鹿肉の魅力を引き出す様々な料理にチャレンジ中です

宝物 南澤さんは4歳と2歳の2児のパパ。大自然でのびのびとたくましく育てています

環境にまつわる市民活動を経て
思い描いた「自然に寄りそう暮らし」

東京生まれの南澤さんが、広島県で暮らすようになったのは大学時代。卒業後は東京で就職したものの、大学時代に活動していたバンドがインディーズデビューすることになり生活の拠点を広島に移しました。塾の講師やバーテンダーをしながら音楽活動を行う毎日を送っていた30歳の時、県外から戻ってきた広島出身の友人が発した一言が南澤さんの運命を大きく変えます。「広島のために何かしたい」。南澤さんたちはNPO法人を立ち上げ、イベントで活用するリユース食器の普及など、環境にまつわる市民活動を展開。そうした活動を行う中で「このまま経済成長を続けたいなら、地球がいくつあっても足りない」と思うようになり、経済的な成功よりも、自然をよりどころにした循環型の暮らしに興味を抱くようになりました。そんな想いを胸にたどり着いたのが市内にあった一軒の古家。まだ、家主が住んだ状態で売りに出していたため、足繁くこの家に通い敷地内の田んぼで農業を学びながら生活環境を整えていきました。地域おこし協力隊に応募したのも、ここで暮らすための選択です。「鳥獣害対策を行うシビアな現場ですが、鹿の皮を使った革製品やジビエ料理など、命と向き合いながら真剣に活用できる方法を考えていきたい」と南澤さん。大自然の中から生活の糧になるものを取り入れ、自然を頼りに暮らす生活。南澤さんの理想とする暮らしを求めて、チャレンジの毎日です。